

# 1933年にシュトゥットガルトで開催された住宅展「コッヘンホーフ・ジードルンク」について

About the housing exhibition "Kochenhof Siedlung" held in Stuttgart in 1933

F.歴史意匠 9.建築歴史・意匠 5.西洋近代建築史

近代ドイツ モダニズム建築 伝統主義  
コッヘンホーフ ポール・シュミットヘンナー FAFA 構法

正会員 ○竹本 真\* Makoto Takemoto  
正会員 内田 青蔵\*\* Seizo Uchida  
正会員 須崎 文代\*\*\* Fumiyo Suzuki

1.はじめに 19世紀末から20世紀初頭のドイツにおけるモダニズム建築の形成過程には、近代国家形成の中でナショナリズムと関係した「ナショナリスト派」による批判があり、「モダニズム派」と「ナショナリスト派」の間には対立関係が存在していたことはよく知られている。しかしながら、モダニズム建築の形成過程に関連する研究の多くは、常に「モダニストによるモダニズム建築の成立過程」といった視点に立ったものと考えられる。

そこで、筆者はモダニズム建築を幅広く論ずるべく、「ナショナリスト派」による「モダニズム派」への批判に着目することで、両派の考えが互いに影響し合いながら、近代ドイツのモダニズム建築の形成の一助になったと考え、近年、特に20世紀初頭の「ナショナリスト派」の中心人物であり、保守的建築思想を展開していたドイツ人建築家ポール・シュルツェ=ナウムブルク<sup>1)</sup> [Paul Schlutze=Naumburg:1869-1949] (以下、ナウムブルク)の建築思想に着目し、モダニズム建築の成立過程への影響関係を報告した<sup>2)</sup>。

本研究は、その一環として、そういったナウムブルクの保守的建築思想をもとに、1928年に結成された保守的建築家集団「Der Block」<sup>3)</sup> (以下、D.B)によって、1933年のナチス政権獲得直後に建設され、今なお現存する「コッヘンホーフ・ジードルンク」(以下、コッヘンホーフ) (図1, 2)について、分譲住宅展の目的とそこで実際に建設された住宅につい

ての概要の報告を行う。

コッヘンホーフは、しばしば1927年にドイツ工作連盟のもと、シュトゥットガルトで建設された「ヴァイゼンホーフ・ジードルンク」(Weißenhof Siedlung) (以下、ヴァイゼンホーフ)に対抗する形で建設されたと扱われるもの<sup>4)</sup>、詳細はほとんど明らかにされていない。

D.Bの一員としてコッヘンホーフの全体計画を担当した、保守的建築家ポール・シュミットヘンナー<sup>5)</sup> [Paul Schmithenner:1884-1972] (以下、シュミットヘンナー)を中心に発表された住宅展覧会のパンフレットを主資料とする。併せて、“Deutsche Bauzeitung” (ドイツの建設) といった当時の建築雑誌に掲載された、コッヘンホーフに関する記事も参照する。

## 2. 「コッヘンホーフ・ジードルンク」(1933)の概要

2-1. 分譲住宅展開催の背景 1933年9月23日にシュトゥットガルト市、ドイツ木材協会、そしてD.Bによって、シュトゥットガルトのコッヘンホーフで、分譲住宅展「住宅建設とアパートのためのドイツの木材」が開催された。当時、新建築材料として、鋼や鉄筋コンクリートが流行していたことへの危機感より、ドイツ木材協会は、ドイツ国内外に対して、木材による木構造の耐久性や経済性の宣伝を通して、ドイツ国内の林業や木材産業の普及を目指していた。また、それは古い街の景観を意識的に伝統と結びつけ再建するという、プロパガンダ的



図1: コッヘンホーフ・ジードルンクの全景

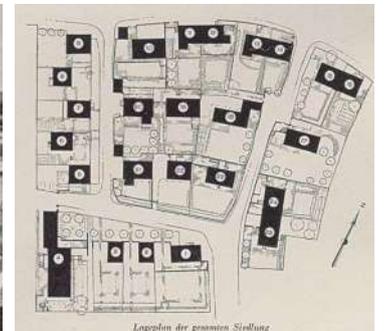


図2: コッヘンホーフ・ジードルンク配置図

\* 神奈川大学工学研究科建築学専攻 博士前期課程

\*\* 神奈川大学工学部建築学科 教授・工学博士

\*\*\* 神奈川大学工学部建築学科 特別助教・博士(工学)

Kanagawa University Graduate School of Engineering Department of Architecture Master's Program

Kanagawa University Faculty of Engineering Department of Architecture Professor / Engineering Doctor

Kanagawa University Faculty of Engineering Department of Architecture Special Assistant Professor / Doctor (Engineering)

な意味も含んでいた。そして、今日の木造技術の最先端をみせることで、木構造が経済的な住宅建設に最適であることを示そうとした。

一方で、後述するように、ヴァイセンホーフの建設に関わる中で、新建築材料の使用と、陸屋根の採用に異論を唱えた D.B は、ナウムブルクの保守的建築思想のもとに団結し、19 世紀初頭のドイツの伝統的な住宅への回帰を求めている。シュトゥットガルト市は、高台に位置する 133 エーカーの建築用地を、ドイツ木材協会に安価かつ有利な支払い条件で提供するなど、援助の体制が存在していたことがうかがえる。

ドイツ木材協会の木材の普及と宣伝といった目的が、D.B の伝統的な住宅への回帰的建築思想と結び付き、それにシュトゥットガルト市が援助したことで、住宅展開催に至ったとされる。

**2-2. 住宅展の概要** 全体計画を担ったシュミットヘンナーを中心に、23 人の建築家によって 25 タイプの住宅が建設された(表 1)。建築家は、建物の配置や内装、庭に関して、また個々の所有者による異なる希望をすべて考慮する必要があった。併せて、個々の施主の経済的利益を考慮する必要があったとされる。コッペンホーフには、外観に関する制約として示された前提条件は大きく以下の 3 点であった。

- ① 木造であること
- ② 切妻屋根を冠すること
- ③ 瓦礫の外壁には漆喰で覆う、または塗装すること

木造に関して、シュミュットヘンナーは、技術的観点より、保温性に優れ、安価かつ迅速に建設できるものとして木材の有効性を主張した。また、木造の骨組みは経済的な住宅建設に適するとして上で、メリットとして以下の 3 点を挙げている<sup>6)</sup>。

- ① 木造の骨組みは最も軽い構造であり、最小の壁厚で最大の保温性を備える
- ② 住宅用外壁としては最も安価である
- ③ 木造の骨組みは、部分的または全体的な乾式壁を使用することで、冬期作業を可能にする

勾配屋根を冠することに関しては、35° 未満の勾配は排除するといった詳細な制約が設けられており<sup>7)</sup>、急勾配の屋根が重要な要素であったことが推測される。そういった急勾配の屋根を冠することのメリットとして、以下の点を挙げている<sup>8)</sup>。

- ① 雨水の侵入と雨水の排水が容易である
- ② 優れた保温性と低音伝導性を備えた補強パネルとなる天井が形成できる
- ③ 防音、結露防止、延焼防止、乾腐病、害虫、ペストなどの予防に有効である

木造と勾配屋根を主張したシュミュットヘンナーは、木造建築技術のさらなる開発には、伝統的な経験に基づく必要があることを強調し、木材産業の宣伝を前提とした上で、技術的観点よりそのメリットを主張したのであった。

**2-3. 住宅の概要** コッペンホーフでの 25 戸の木造住居は、その形式より以下の 3 タイプに分類できる(図 3)。

- ① 一戸建住宅: 16 戸  
(Type. 1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23)
- ② 二連戸住宅: 8 戸 (Type. 11/12, 13/14, 15/16, 24/25)
- ③ 集合住宅: 1 戸 (Type. 4)

全てのタイプに地下室があり、電気、ガス、上下水道も完備されている。併せて、建設構造についても、大きく以下の 4 タイプに分けられ、更に 7 タイプに細分化できる(表 2)。

表1: コッペンホーフ・ジードルンク 概要

ここに記載されている建設の合計には、備品、庭園、建築家の費用、建設管理を含む建設費が含まれるが、土地の価格と近隣の費用は含まれない。

| タイプ | 建築家  | 当時の役職   | 建築面積(m <sup>2</sup> ) | 建設費(RM) | 構造                     |
|-----|--|---|-----------------------|---------|------------------------|
| 1   | Professor Dr. Paul Schmittner(ポール・シュミットヘンナー)                         | シュトゥットガルト工科大学教授                                 | 85                    | 21850   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 2   | Professor Dr. Paul Schmittner(ポール・シュミットヘンナー)                         |   | 53.1                  | 13650   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 3   | Professor Dr. Paul Schmittner(ポール・シュミットヘンナー)                         |   | 53.1                  | 13350   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 4   | Professor Dr. Paul Bonatz & F.E. Scholer(ポール・ボナッツ&フリードリッヒ・ユードン・ショラー) | シュトゥットガルト工科大学教授・ボナッツ設計事務所員                      | 270                   | 101840  | Skelettbau(スkeleton構造) |
| 5   | Dr.-Ing. Ernst Schwaderer(エルンスト・シュウェーダー)                             | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 63.08                 | 14300   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 6   | Reg.-Baum Paul Helm(ポール・ハイム)   | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 67.5                  | 15500   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 7   | Reg.-Baum Hermann Gabel(ヘルマン・ゲープラー)                                  | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 68.4                  | 14900   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 8   | Reg.-Baum Hans Volkart(ハンス・ヴォルクアート)                                  | シュトゥットガルト工科大学教授                                 | 57.15                 | 13400   | Tafelbau(パネル構造)        |
| 9   | Reg.-Baum Gerhard Grauber(ゲルハルト・グラブナー)                               | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 95.4                  | 18000   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 10  | Dipl.-Ing. Richard Weber(リチャード・ウェーバー)                                | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 107                   | 21000   | Skelettbau(スkeleton構造) |
| 11  | Dipl.-Ing. E. Kiemle & P. Weber(キエムレ&ウェーバー)                          | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 71                    | 19000   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 12  | Dipl.-Ing. Albert Eitel & Hans Eitel(アルバート・アイテル&ハンス・アイテル)            | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 74                    | 20000   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 13  | Reg.-Baum Alfred Kicherer(アルフレッド・キューラー)                              | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 82                    | 23500   | Tafelbau(パネル構造)        |
| 14  | Dr.-Ing. Eduard Kröger(エドゥアルト・クリューガー)                                | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 76                    | 15000   | Blockbau(ブロック構造)       |
| 15  | Dipl.-Ing. Otto Köbele(オットー・コペレ)                                     | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 78.4                  | 20000   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 16  | Reg.-Baum Eisenlohr & Pfennig(アイゼンロー&プフェニヒ)                          | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 71.2                  | 16000   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 17  | Helmut Weber(ヘルムート・ウェーバー)  | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 116                   | 17400   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 18  | Professor W. Kötter(ヴェルター・ケッター)                                      | シュトゥットガルト工科大学教授                                 | 115                   | 23500   | Tafelbau(パネル構造)        |
| 19  | Professor Ernst Wagner(エルンスト・ワグナー)                                   | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 99                    | 19000   | Blockbau(ブロック構造)       |
| 20  | Ernst Leisner(エルンスト・ライズナー)   | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 100                   | 24000   | Tafelbau(パネル構造)        |
| 21  | Reg.-Baum W. Panther(ヴェルナー・パンゼッカー)                                   | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 90                    | 23000   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 22  | Reg.-Baum Hans Mayer(ハンス・マイヤー)                                       | シュミットヘンナーの助手(シュトゥットガルト工科大学)                     | 70                    | 16180   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 23  | Dipl.-Ing. Erhard Rommel & Erich Wierken(エルヴィン・ロンメル&エリッヒ・ウィムケン)      | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 85                    | 19200   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 24  | Professor Wilhelm Tiedje(ヴィルヘルム・ティエジエ)                               | シュトゥットガルトの建築家(シュトゥットガルト工科大学)                    | 98                    | 26500   | Alter Fachwerbau(半木造)  |
| 25  | Reg.-Baum Karl Goser(カール・ゴッサー)                                       | シュトゥットガルト工科大学都市計画家ハインツ・ヴェッツェルの助手(シュトゥットガルト工科大学) | 98                    | 22700   | Alter Fachwerbau(半木造)  |

これは 1933 年 5 月に分譲住宅展が計画され、同年 9 月に開催されたことから推測されるように、短期間での建設が想定され、そのために迅速かつ合理的な建設方法として模索されていたことが考えられる(表 3)。

そういった合理的な建設方法の顕著なものとして、シュミットヘンナーが手掛けた作品に注目される(図 3)。シュミットヘンナーは 1927 年時には既に木造建設における合理的な建設方法を提示している。伝統的な住宅の建設は、工事価格が高く非難されることに対して、新しく工業化された構法によって、経済的正当化を示したものであった。それは FAFA 構法 (FABRIZIERTES FACHWERK SYSTEM、以下 FAFA 構法) といったハーフティンバーであった。これは、アメリカのバルーン・フレーム構法に類似した壁式構法であり、標準化による大量生産と部材の軽量化、工期の短縮を可能としている。

表2: コッペンホーフ・ジードルンク 構造

|   |                         |     |                               |
|---|-------------------------|-----|-------------------------------|
| ① | Alter Fachwerkbau (半木造) | ①-A | Altes system (旧式)             |
|   |                         | ①-B | Verbessertes System (改良型)     |
|   |                         | ①-C | Kombiniertes system (複合型)     |
| ② | Blockbau (ブロック構造)       | ②-A | Stehender Blockbau (垂直ブロック工法) |
|   |                         | ②-B | Liegender Blockbau (水平ブロック工法) |
| ③ | Tafelbau (パネル構造)        |     |                               |
| ④ | Skelettbau (スケルトン構造)    |     |                               |

表3: コッペンホーフ・ジードルンク スケジュール

|            |                              |
|------------|------------------------------|
| 1933年5月4日  | 準備作業開始。開発計画作成。               |
| 1933年5月10日 | 設計者を募集する最初の公聴会               |
| 1933年5月20日 | 提出されたデザインに基づいた建築委員会による建築家の選定 |
| 1933年5月29日 | 建築委員会への提出計画の提出               |
| 1933年6月6日  | 建築委員会による計画の承認                |
| 1933年6月9日  | 建設警察による計画の承認                 |
| 1933年6月26日 | 起工式                          |
| 1933年7月3日  | 道路工事                         |
| 1933年7月13日 | 住宅完成                         |
| 1933年9月23日 | 展示会開催                        |

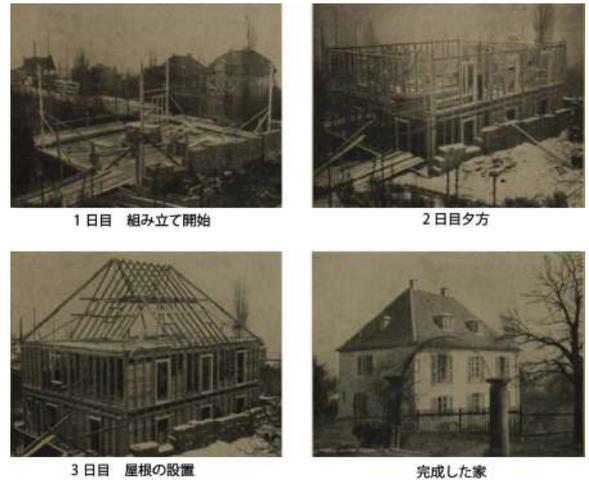


図 4 : FAFA 構法 「5 日間で一戸建て住宅を建てる」(1927)

もっとも、「保護用の外部漆喰を除いて、建物が乾燥している」<sup>9)</sup>と述べるように、ウォルター・グロピウス(以下、グロピウス)が、新しい合理的な構法として、工場生産によって労働量を抑えながら天候や季節に左右されることなく生産できると提言した「Trocken Montagebau [トロックン・モンタージュ・バウ(乾式組立構造)]」とも類似している。グロピウスを始めとするモダニストが、ヴァイセンホーフ(1927)やフランクフルト・アム・マインでのジードルンク(1925-1930)において、住宅建設の合理化のために、鋼や鉄筋コンクリートによって合理的な構法を実験していたのに対して、シュミットヘンナーは木材による合理的な構法を実験したと考えられる(図 4)。



1・2・4: 地下室, 3: 洗面所, 6: リビング, 7: キッチン, 11・12・13: 寝室

図 3 : Type.3 ポール・シュミットヘンナー 各階平面図・立面図・断面図

### 3. 「コッヘンホーフ・ジードルンク」建設の社会的背景

1933年に建設されたコッヘンホーフは、1927年にシュトゥットガルトで開催された住宅展「建築と住居」におけるヴァイセンホーフに対抗する形で開催されたと考えられる。ヴァイセンホーフはドイツ工作連盟主導の元、合理的で新しい住宅を作る実験の場であった。ヴァイセンホーフの目的は、建設業界にも影響を与えたワイマール共和国の経済状況の悪化を考慮し、短期間の工事ではほとんど財政的手段なしで建設できる住宅を紹介することであり、それは鋼や鉄筋コンクリートなどの新しい材料の使用によるものであった。

ヴァイセンホーフは、当初シュトゥットガルトの建築家、ポール・ボナツ<sup>10)</sup> [Paul Bonatz:1877-1956]がドイツ工作連盟の委嘱で建築計画に当たっていたが、勾配屋根をもった住棟を配置した計画に批判が出て、同連盟員であったミース・ファンデル・ローエ(以下、ミース)が代わってマスタープランを作り上げた。これに抗議したボナツはドイツ工作連盟を脱退し、1928年に、ナウムブルク・ザーレックにおいて設立されたD.Bの一員となったとされる。

D.Bにはナウムブルクといった保守的建築思想のもとに、ドイツの郷土や文化の保護、建築においても陸屋根を否定し、勾配屋根を冠する土着的な建築を美德として活動していた人物らによって構成されていた(表4)。もっとも、この団体名称は1926年にグロピウスやミースといった後のモダニスト達による建築家集団「Der Ring」<sup>11)</sup>に対抗したものであり、D.Bはドイツの伝統と価値観を守り永続させるために、伝統的な建築構法や材料を維持し、近代的で機能的な建築の外観表現を批判したのであった。

コッヘンホーフに関与した建築家達は、D.Bのメンバーやシュトゥットガルト工科大学の卒業生や教授であった。さらに、この住宅展は、関係するほとんどの建築家、プロジェクトをサポートしたクラブや協会がシュトゥットガルト出身であり、土着的傾向の強いものであったと推測される<sup>12)</sup>。

そして、ヴァイセンホーフに対抗するための意識的なデモンストレーションとして、わずかに数百メートル先に、木造かつ勾配屋根を冠するといった制約が設けられた住宅地である、コッヘンホーフを建設したと考えられる。

表4: Der Block 創設メンバー

| 人物                                      | 当時の役職   |
|---|---|
| Paul Bonatz(ポール・ボナツ)                    | Co-founder of the Architects Association DerBlock(Der Block共同創設者) |
| Paul Schmittner(ポール・シュミットヘンナー)          | Co-founder of the Architects Association DerBlock(Der Block共同創設者) |
| German Bestelmeyer(ゲルマン・ベステルマイヤー)       | Professor, Technische University München(ミュンヘン工科大学教授)             |
| Erich Blunck(エーリヒ・ブルンク)                 | Professor, Technical University of Berlin(ベルリン工科大学教授)             |
| Albert Geisler(アルベルト・ゲイスラー)             | Associate Professor, Technical University of Berlin(ベルリン工科大学準教授)  |
| Paul Schultze-Naumburg(ポール・シュルツェナウムブルク) | Co-founder of the Architects Association DerBlock(Der Block共同創設者) |
| Franz Seesk(フランツ・ゼーク)                   | Member of the Prussian Academy of Arts(プロイセン芸術アカデミー会員)            |
| Heinz Stoffregen(ハインツ・ストフレーゲン)          | Co-founder of the Architects Association DerBlock(Der Block共同創設者) |

4. まとめ 本研究では、1933年にドイツ・シュトゥットガルトで開催された住宅展覧会で設計された住宅「コッヘンホーフ・ジードルンク」に着目し、概要の報告を行なった。そこでは以下の点が明らかとなった。

- ① 1933年にシュトゥットガルトで分譲住宅展覧会「コッヘンホーフ・ジードルンク」が開催された。それは、ドイツ木材協会の木材の普及と宣伝といった目的が、D.Bの伝統的な住宅への回帰といった建築思想と結び付き、それにシュトゥットガルト市が援助したことで、開催に至ったとされる。
- ② 住宅には、木造の骨組みかつ35度未満の勾配を排除した勾配屋根を冠することが規定されていた。全体計画を担ったシュミットヘンナーは、保温性と安価かつ迅速に建設できる点より木造の有利性を主張した。
- ③ 伝統的な住宅の建設は、工事価格が高いとの非難に対して、シュミットヘンナーは1927年に、FAFA構法といった独自の木造建設における合理的建設方法を提示した。そして、そこで検討された木材による合理的構法をコッヘンホーフで実験したと考えられる。
- ④ コッヘンホーフはヴァイセンホーフに対する意識的なデモンストレーションであったと考えられる。前者は木造で勾配屋根、後者は鋼や鉄筋コンクリートで陸屋根といった、相反する制約があったものの、両者ともに合理的建設方法の実験場として展開されていたことがうかがえる。

総じて、コッヘンホーフとヴァイセンホーフによる両派の展覧会は、単なる保守派と改革派の対立関係の表象としてではなく、両派の実験によって生まれた構法が、相乗効果として止揚され、近代ドイツのモダニズム建築形成へ影響を与えたと推測される。

注釈 1) ポール・シュルツェナウムブルク [Paul Schultze-Naumburg: 1869-1949]ドイツの保守派を代表する建築家・理論家著作も多い。作品は住宅が中心。八東はじめ+小山明 『未完の帝国ナチス・ドイツの建築と都市』福武書店 1991 参照。2) 著者による近年の既発表論文をいくつか示す。・竹本真, 内田青蔵 「ドイツ人建築家ポール・シュルツェナウムブルクの建築思想について-著書『文化研究(1)家の建設』(1901)を中心に-」『日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)』2021年9月・竹本真, 内田青蔵 「ドイツ人建築家ポール・シュルツェナウムブルクの建築思想について-1920年代の「屋根論争」を中心に-」『日本生活学会』2021年6月。3) 『Der Block』前衛的な協会である『Der Ring』に応じて、1928年に設立されたドイツの建築家協会。工芸と地域の伝統の両方を取り入れた歴史主義に基づいた保守的建築思想をもとに展開。4) 八東はじめ+小山明 『未完の帝国ナチス・ドイツの建築と都市』福武書店 1991 p.147.5) ポール・シュミットヘンナー [Paul Schmittner:1884-1972]ドイツの建築家。シュトゥットガルト工科大学教授。ビーデルマイヤー(市民的後期古典主義)風の歴史主義代表者。各地のゾーランド建設に参加。八東はじめ+小山明 『未完の帝国ナチス・ドイツの建築と都市』福武書店 1991 参照。6) 『DER BAUMEISTER 31. JAHRGANG, HEFT. 11』pp.386-387. 7) JULIUS HOFFMANN 『DIE 25 EINFAMILIEN-HAUSER DER HOLZSIEDLUNG AM KOCHENHOF』2006 p.3.8) 前項書4同。9) Wolfgang Voigt 「Bau und Gegenbau - unter dem gemeinsamen Dach der Moderne?」『Moderne neu denken Architektur und Städtebau des 20. Jahrhunderts - zwischen Avantgarde und Tradition』2019 p.131.10) ポール・ボナツ [Paul Bonatz: 1877-1951]シュトゥットガルトの建築家。一時はナチス政権にコミットするが、後にヒトラーと合わずにトルコに亡命。戦後帰国する。八東はじめ+小山明 『未完の帝国ナチス・ドイツの建築と都市』福武書店 1991 参照。11) 『Der Ring』1925年ベルリン在住建築家たちを中心として結成された建築家集団。フーゴ・ヘーリング、ミース・ファンデル・ローエ、グロピウス、エルンスト・マイ、タウト兄弟ら、急進的な建築家参加。ナチスが勢力を得るにつれ非難の対象となり、1933年解体。八東はじめ+小山明 『未完の帝国ナチス・ドイツの建築と都市』福武書店 1991 参照。12) 『Deutsche Bauzeitung 1933 Jg.67 No.45』 『DER BAUMEISTER 31. JAHRGANG, HEFT.11』より建築家を確認したところ、D.Bのメンバーやシュトゥットガルト工科大学の元学生や教授であったことが確認できた。

図版出典 図1) 『DER BAUMEISTER 31. JAHRGANG, HEFT. 11』p.387より引用。図2) 前項書1 p.388より引用。図3) 『Deutsche Bauzeitung 65. JAHR 1931 18. FEBRUAR』p.24より引用。図4) 前項書3 p.25より引用